

「広野町防災の駅」整備事業

事業の概要・経緯

広野町では、未曾有の複合災害を受けたことを教訓に、災害に強いまちづくり、復興のシンボルとして「防災拠点道の駅ひろの」の整備を計画しました。ヘリポートや防災広場に加え、情報提供施設、物流・地域振興施設、交流施設、駐車場、トイレ等を国土交通省と連携して整備することとし、平成 27 年度に事業化しました。

平成 30 年度から工事を開始しましたが、令和元年に地盤の掘削工事中に硬質な岩盤が出現しました。そのため、令和 2 年度に事業費や採算性等を再度確認しつつ、機能や規模の縮小を含め事業計画を見直すこととし地権者・住民・町議会に説明し、以降は事業を休止していました。

今般、事業計画を再度見直した結果、地域振興施設を伴う「道の駅」の計画を中止することとし、今後は町独自の計画として、原子力災害からの新たな時代の安心・安全な防災に強い“共生のまちづくり”を展望して、有事の際の防災機能を備えつつ、二ツ沼総合公園と連携して、ゼロカーボンや環境保全に資する機能を備えた新たな拠点を整備することとしました。

<これまでの経緯>

平成 27 年 7 月 「防災拠点道の駅ひろの」基本構想

平成 27 年 8 月 「道の駅ひろの」を事業化

平成 31 年 2 月 工事に着手

令和元年 11 月 地盤の掘削工事中に硬岩が出現

令和 2 年 8 月 「防災拠点道の駅ひろの」整備方針見直の地権者・住民説明

令和 2 年 9 月 「防災拠点道の駅ひろの」整備方針見直の議会説明

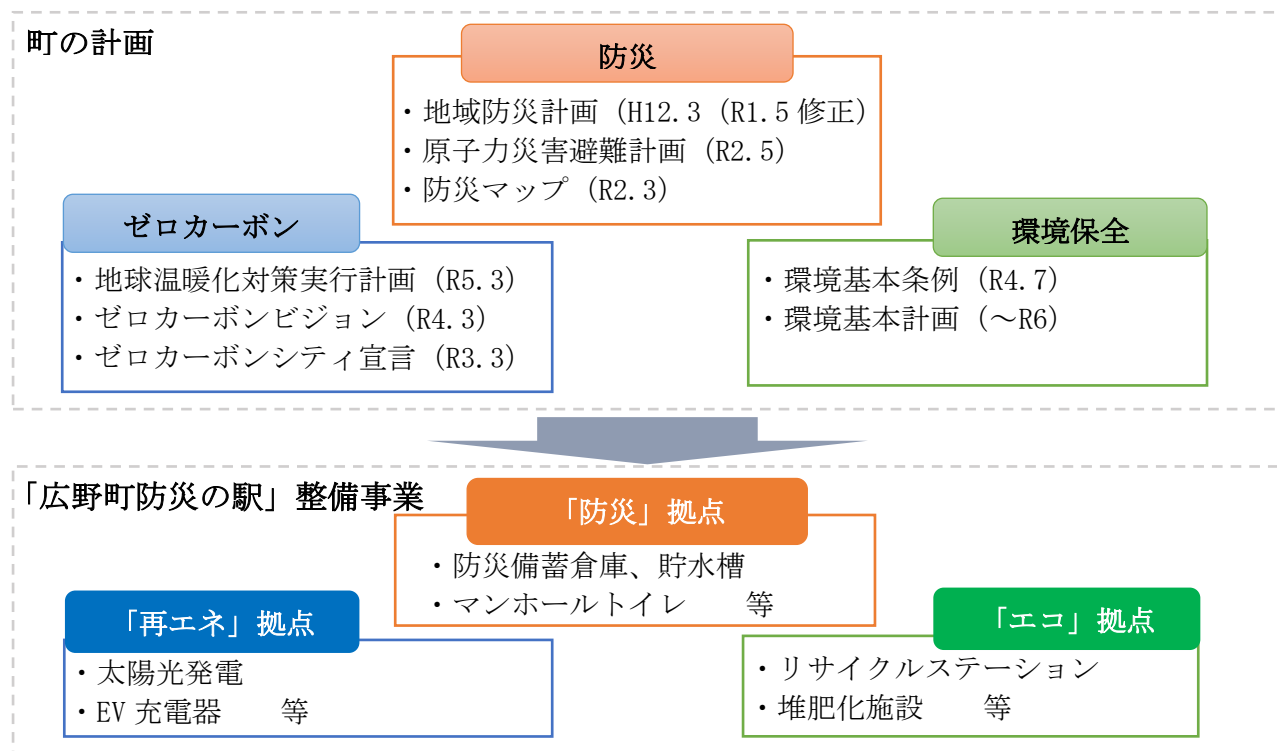
令和 3 年 9 月 道の駅に関する調査特別委員会設置

令和 4 年 12 月 道の駅に関する調査特別委員会報告

令和 5 年 1 月 道の駅整備跡地の現況について議会報告

町は東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による未曾有の複合災害を経験し、災害時における課題解決と復興・創生に向かうに当たり、「防災に強い共生のまちづくり」を念頭に事業を推進し、防災に関して、有事の際における住民の避難の場、情報収集の場、災害救助に係る場等となり、何よりも住民の命を守るために、町役場を中心とした防災拠点を計画し、防災の強化に取り組んできました。

防災の司令塔となる広野町役場を中心とした国道6号沿線の折木地区防災エリア、二ツ沼総合公園の連携により、防災におけるネットワークを形成し、道の駅計画から町独自の防災の駅整備に移行し、地権者から提供頂いた土地の有効利用を捉え、原子力災害からの新たな時代の安心・安全な防災に強い“共生のまちづくり”を展望してまいります。施設の整備については「脱カーボン宣言」や「環境基本条例」の制定に基づく新たな施策に対応する施設も同時に進め、中長期的な計画のもと、整備を推進してまいります。



整備する施設等

